

令和2年度入試【推薦入試Ⅰ】問題

小論文

(生物資源科学部 農林生産学科)

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は4ページである。解答用紙は4枚、下書き用紙は4枚である。指示があつてから確認し、解答用紙、下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 問1、問2の両方とも解答すること。
- 4 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 5 解答用紙及び下書き用紙は持ち帰ってはいけない。
- 6 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

問1 次の説明文と資料を読んで、2つの問い合わせに答えなさい。

国連（the United Nations）において、2015年に「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」（Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development）が採択された。そのアジェンダにおいて17の目標（Goals）が掲げられている。以下に示す資料は、国連のWebサイト内のページの一部を画像化したものと、アジェンダから抜粋した目標の記述である。

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (2015
年9月25日第70回国連総会にて採択) より抜粋

問1－1：「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」にある17の目標の中から農業や林業が関係するものを1つ取り上げ、なぜそのような目標が掲げられているのか、その現状の問題点や解決すべき課題について、あなたが知っていることを400字程度で説明しなさい。

問1－2：問1－1で取り上げた目標を達成するために、農業または林業が果たすべき役割や今後の発展と展望について400字程度で論じなさい。

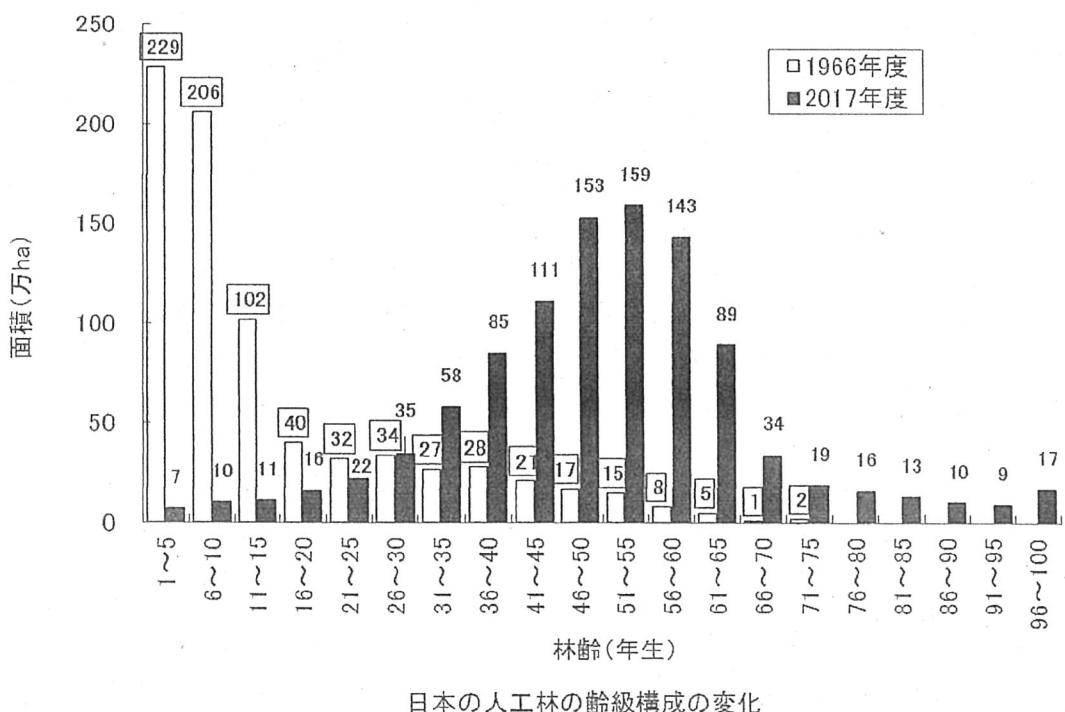
問2 森林は、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化の防止などの多面的機能ならびに木材生産機能を有している。このような機能を持続的に発揮していくためには、森林の適正な整備や保全が必要である。日本には木材の生産を目的として造成された人工林が現在約1,000万ha（ヘクタール）あり、木材生産を担ってきた。以下のグラフは日本の人工林の齢級構成の変化を示している。グラフを読み取り以下の設間に答えなさい。

ただし、面積の単位は万haであり、1ha（1ヘクタール）は1万m²（100m×100m）である。また、林齢は森林の年齢を表す単位であり、苗木が植栽されてからの年数を「1年生」、「2年生」・・・と表す。齢級は5年毎に区切られており、「1～5年生」、「6～10年生」・・・となっている。

問2－1：1966年度の1年生から20年生までの人工林の面積は何万haですか。

問2－2：図から読み取れる1966年度と2017年度の日本の人工林の齢級構成の特徴を述べなさい。

問2－3：日本の人工林の齢級構成の変化を基にして、日本の人工林が抱える問題を挙げ、その解決方法を答えなさい。なお、日本の人工林から伐採された木材は建築用の柱材や合板用材として使われることが多く、50年生前後で柱材や合板用材に最適な大きさになる。



出典：平成30年度森林・林業白書

「資料II-1 人工林の齢級構成の変化」データから作図した。